

かわたびほっかいどうのさらなる推進に向けて 2022

北海道開発局 建設部 河川計画課

○小泉 和久
村上 理恵

平成30年度より北海道の河川に関わる活動を通じて、地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的とする取組としてかわたびほっかいどうを推進している。活動開始から5年が経過し、かわたびほっかいどうをより推進していくための課題に対し、課題解決に向けて新たな試みとして取り組んでいる内容について報告するとともに、今後の展望について紹介する

キーワード：地域活性化、地域交流・連携、まちづくり

1. はじめに

平成28年3月に閣議決定された「第8期北海道総合開発計画」では「食」と「観光」を北海道の戦略的産業として、世界を意識しながら更なる振興を図り「世界水準の観光地」を目指しています。

河川空間においては、これまで環境整備事業等により親水環境の整備を進めてきており、平成21年に「かわまちづくり支援制度」の発足以降、現在北海道内で21箇所（北海道開発局が管理する河川では12箇所）において登録され、ますます水辺を活用した空間の整備、街と川が一体となった整備を進めております。

「かわたびほっかいどう」プロジェクトは、第8期北海道総合開発計画を契機に北海道の豊かな自然と河川に関わる活動を通じて、地域の活性化や振興を図り、北海道の魅力を最大限に引き出すことを目的に、この目的の達成に向けた活動を総称しており、キャッチフレーズとしては、みんなで水辺を「つくる」、水辺と周辺のまちや地域が一体となって「つながる」、水辺やその周辺地域・文化・歴史を「はぐくむ」こととして進めております。

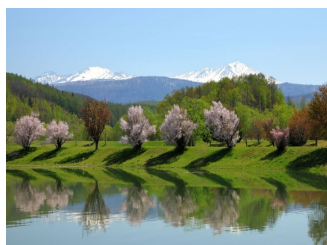


写真-1
尻別川桜づつみ



写真-2
定山溪ダムアイススケルセル

本稿では、プロジェクト推進から5年経過した中で、取組を推進する上でいくつかの課題が明確となり、それ

KOIZUMI Kazuhisa, MURAKAMI Rie

ら課題解決に向けて新たに取り組んできた対応策及び今後の展望について報告します。

2. 「かわたびほっかいどう」の始まり

(1) 「かわたびほっかいどう」の趣旨

「かわたびほっかいどう」の活動では、環境整備事業で整備された河川空間はもとより、四季折々の川の自然環境や景観、水辺活動等を通じて、河川空間が有するポテンシャルを活用したツーリズムの推進を図っております。

具体的には、様々な川に関する情報を効果的に発信し、住民や観光客の水辺利用や周遊のサポート、各地域・各分野の関係者間のネットワーク強化による水辺利活用に係るニーズの発掘・マッチングの促進、地域と連携した魅力的な水辺空間の創出などにより、地域づくり・観光振興に貢献する取組を全道的に推進しております。

(2) プロジェクト当初の活動

「かわたびほっかいどう」の活動を広く知ってもらうために、観光協会、旅行会社、マスコミ等へ積極的に広報するとともに、「かわたびほっかいどう」専用ホームページの開設、「かわたびほっかいどう」のロゴ作成等広報資料の作成から取り組み始めました。



図-1 かわたびほっかいどう
ホームページ

かわたびほっかいどうホームページ
URL: <https://kawatabi-hokkaido.com/>

かわたびほっかいどう
ホームページ QR コード

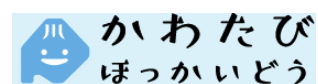


図-2 かわたびほっかいどうロゴ

また、既存のかわまちづくり事業などの協議会を活用し地域との交流を促進させ、川に関心を持つ人々、地域のキーパーソンとのネットワークの構築に努めてきました。

各開発建設部には、「かわたびほっかいどう」担当者を配置し、自治体等との窓口となり親身な相談が出来る体制づくりを実施してきております。

(3) これまでの具体的な取組概要

(a) 情報発信

これまでに「かわたびほっかいどう」の取組を通じて河川の魅力をより多くの方々に知って頂けるよう、様々な手法により情報発信してきました。

取組の一つとしてかわたびほっかいどうホームページによる「川のイベント情報」のほか、「水辺のサイクリングマップ」や「川と水辺の歴史旅」として川にまつわる偉人たちや水害・治水の歴史を紹介したり、多くのコンテンツを掲載し様々な視点からの情報を発信しています。北海道の河川の魅力や水辺のイベント、アクティビティ等の情報を効果的に発信することにより、水辺空間の利用を促進し、地域の活性化と観光振興を応援しています。



図-3 サイクリングマップ



川を渡る、時を渡る。ロマンを感じる旅へ出かけよう。



図-5 イベント情報

また、四季折々の川の魅力についてポスター、チラシによるPRや観光情報誌への特集記事の掲載及び札幌市地下歩道空間デジタルサイネージを活用した定山溪ダムの動画配信等により、多くの方々の目に届くよう、情報発信してきました。



写真-3 札幌市地下歩道空間デジタルサイネージ



図-6 かわたびほっかいどうポスター

(b) 地域のキーマンとのネットワーク促進

これまで、河川の取組に関心を持つ者や地域のキーマン・地元民間企業とのネットワークの構築を目指す取組として、かわまちづくり協議会や観光関係協議会への積極的な参加により地域のまちづくり担当者との繋がりや地域のキーマンとなる方々との意見交換会などを開催し、人的交流を構築してきました。



写真-4 地域のキーマンと交流会



写真-5 協議会への参加

(c) 水辺利活用の促進

かわまちづくり支援制度を活用し河川を活かしたまちづくりとして、河口から水源地まで様々な姿を見せる河川とそれに繋がるまちを活性化するため、地域の景観、歴史、文化及び観光基盤などの「資源」や地域の創意に富んだ「知恵」を活かし、市町村、民間事業者及び地元住民と河川管理者の連携の下、河川空間とまち空間が融合した良好な空間形成を目指すかわまちづくり事業についても、各地域で進められています。

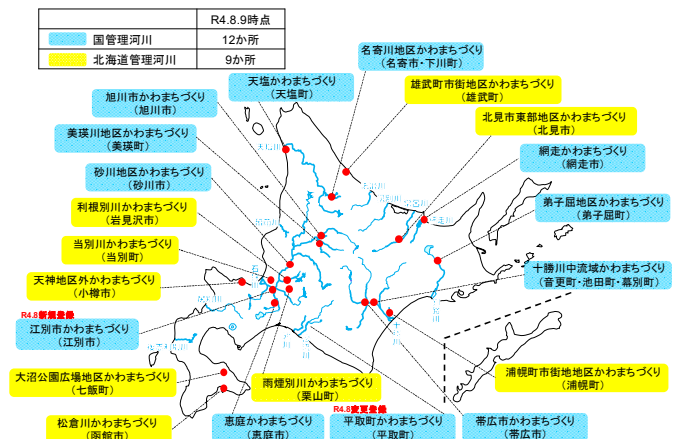


図-7 かわまちづくり実施箇所

また、豊かな自然などの観光資源や、都市部の貴重なオープンスペースとしての価値を有する河川敷地において、民間事業者等も営業活動を行うことができるよう、地域の合意形成を図り、都市・地域再生等利用区域の指定を各地域(北海道7箇所)において実施され、事業者等による営業活動が開始されています。



写真-6 十勝川河川敷オープン化



写真-7 砂川オアシスパークオープン化

3. 見えてきた課題

(1) 実務担当者の声

「かわたびほっかいどう」の活動を推進するために現場で抱えている課題について各開発建設部かわたび担当者とは意見交換した結果、いくつかの課題が浮上しました。

「かわたびほっかいどう」の目的については、そもそもの目的が、かわたび担当者以外の職員まで浸透しておらず、活動を推進していくためには、より多くの職員が「かわたびほっかいどう」の活動を認識する事の重要性や推進体制についてはかわたび担当者の役割が明確ではなく何を取組べきか悩んでいる声があげられました。

また、水辺空間の利活用方法や魅力を広く多くの方々を知って頂けるよう、より一層の知名度向上に向けてメディア等へ取り上げられて貰うような仕掛けの必要性など、率直な意見を実務担当者との意見交換で確認出来ました。

4. 課題解決に向けた改善策と効果

(1) 全道WEB会議・事務連絡の発出

「かわたびほっかいどう」の取組を進めてきましたが担当者のみで活動している状況であり、担当者以外の職員は河川職員の中でも何を実施しているかわからない等、内部において「かわたびほっかいどう」の取組が浸透しきれていない状況を受け、「かわたびほっかいどう」担当者以外の工事部門、管理部門含めた全道会議を開催し、「かわたびほっかいどう」の目的や定義を実施要綱と推進基本方針により定め、事務連絡により周知しました。今後の進め方として、活動の継続性を重視し、これまで実施してきた取組を活かしつつ、新たな負担を最小限とし、効果が最大限となるよう、少しの工夫やサポート体制を強化することとしました。

全道会議開催後、河川工事現場内の看板には「かわたびほっかいどう」のロゴとQRコードを目にする事が出来、また、現場説明時にはかわたびほっかいどうの取組なども合わせて紹介しているとの声も聞き、徐々に担当者以外にも浸透してきていることが伺えます。



写真8 現場事務所 PR 状況



写真9 工事看板 PR 状況

(2) かわたびサポートデスクの設置

かわたびほっかいどうホームページへのPR動画・活動写真の掲載等のとりまとめ窓口を設け、部局担当者の負担を軽減できる仕組みとしました。活動の実施概要、

活動写真等を窓口へ送付することで、かわたびほっかいどうホームページに掲載できる仕組みとして手軽にホームページに掲載できるよう見直しました。窓口の設置により窓口設置前の掲載記事の約3倍の記事が掲載される結果となりました。

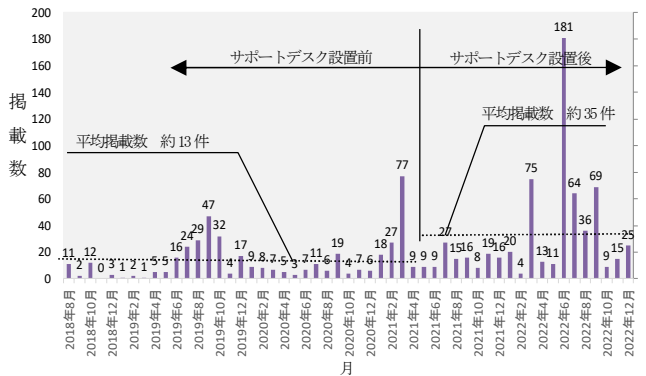


図8 ホームページ記事掲載推移

(3) ホームページの改良とかわたびPressの発刊

かわたびほっかいどうホームページをより一層充実させ、水辺を活用・利用して頂くよう、ホームページを改良してきました。

具体的には、北海道の主な河川周辺の「かわたびスポット」をgoogleマップ上で確認出来る「かわたびマップ」を作成しました。かわたびスポットは「見る」「学ぶ」「遊ぶ」「食」などのジャンルからスポット検索できるよう工夫し、旅行予定や旅先での経路検索に活用できるように作成しております。確認したいアイコンをクリックする事により当該箇所の写真や概要が確認できます。



図9 かわたびマップ

また、新たに「トリビアのみずべ」と題し、身近な水辺の意外と知られていない不思議や発見など専門家等からの解説を交えながらちょっとした豆知識を学べるコーナーも新設しています。十勝川河口のジュエリーアイスに出会える条件や美瑛町青い池はなぜ青いなど気になる話題をピックアップし定期的に掲載しておりますので是非覗いてみて下さい。

また、ホームページの改良の他、「かわたびほっかいどう」の活動トピックスを年に数回程度取りまとめた情報に加え、日ごろから河川の調査・計画、工事、維持管理に携わる北海道開発局職員より川のプロだか

らお届けできる水辺の耳寄り情報を含めお届けするWEB版と紙新聞の発刊も始めました。

外部向けの広報強化はもちろんのこと、内部の職員向けの強化として、イントラネットにかわたび情報、HOTコミュ、事務連絡などの関係情報の掲載やかわたびほっかいどうホームページの更新状況をメールにて展開し、周知することとしました。



図-10 かわたびPress

(4) かわたびほっかいどう報告会の実施及び表彰制度の設立

新たな取り組みとして、各地域で取り組んできた活動を更に推進することを目的として1年間の取組活動報告会を開催することとしました。

令和3年は全道各地の実施者と一緒に水辺の魅力がいっぱい詰まった約300の活動が行われ、その中から特に優良な取組をかわたびほっかいどう大賞、優秀賞として選定しました。かわたびほっかいどう大賞は「かわたびほっかいどう」のWEBサイトで紹介した記事の中から、特に優れた内容のものを表彰する新しい試みです。それぞれの取組を、皆で共有することで、新しいチャレンジのアイデアやヒントにつなげ北海道の川の魅力をより多くの人に届けていくこと、また、「かわたびほっかいどう」への積極的な関わりや情報発信へのモチベーションを目的に実施しました。

大賞の選出方法は、一緒に活動した地域の方々や開建職員で紹介するプレゼンテーションが行われ、継続性、連携性、先進性、創意工夫、効果、展開性の6つの観点で評価し、かわたびほっかいどう大賞と優秀賞を選定します。令和3年の受賞取組地区では各地メディアにも取り上げられかわたびほっかいどうの活動が徐々に広がりを見せ始めてきました。令和4年以降も引き続きかわたびほっかいどう活動報告会を開催し、地域の魅力がいっぱいつまった活動を紹介していきます。



写真-10 活動団体よりWEBによる活動報告

いくつかの課題について取り組んできた結果、ホームページ改良の効果として改良前後でホームページのアク

セス数が飛躍的に増加してきました。年間を通じて毎年確実に増加傾向にあり、特に、川辺の利活用が盛んになる夏場の7月及び8月を確認すると、2022年と2021年の閲覧数を比較すると、約3倍まで増加しております。「かわたびほっかいどう」の取組がより多くの人に認知されてきた結果の一つだと思います。

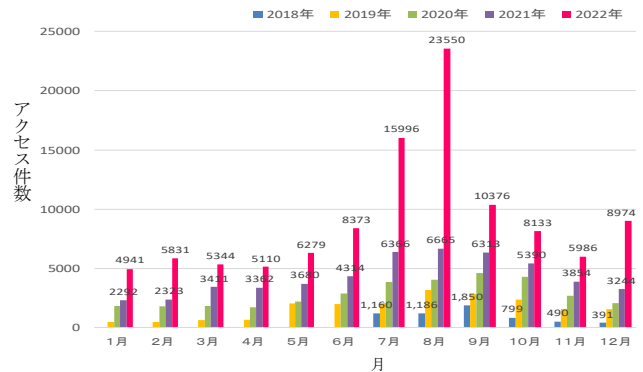


図-11 ホームページアクセス数推移

5. 今後の方針

「かわたびほっかいどう」のキャッチフレーズ、水辺を「つくる」に対応し、これまで以上にかわまちづくり支援制度の活用や都市地域再生等利用区域の指定等による民間事業者による営利活動等により河川空間の利用促進を図ります。

水辺と地域の「つながり」については、民間主体のエリアマネジメントやPFIなどにより民間事業者の知恵や技術を活用できるよう、「かわたびほっかいどう」の人的ネットワークをもとに、地域住民や民間事業者と河川管理者をつなぐ役割を果たしていくことや河川敷地の民間活用の相談窓口を設けて、民間の需要を把握し、「かわたびほっかいどう」で支援していくことも可能かと考えます。

水辺や周辺地域との「はぐくみ」としてイベントによる一時的な賑わいのみならず、地域住民や観光客に恒常的に愛着をもって利用されるよう河川空間の創出、維持、管理を目指していきたいと思います。

今後も引き続き、第8期北海道総合開発計画に資する取組の強化に努めていきます。

6. まとめ

コロナ禍をとおして、水辺活動の取組も変化を余儀なくされました。一時、会議やイベントはWEB開催やイベントの中止など多くの制限がある中で活動してきました。令和4年度は多くの対面での会議やイベントの開催など、明るい兆しも見えてきました。今後の観光需要の回復や本格的なインバウンド回復にも目を向け、「かわたびほっかいどう」では、今後もより一層、地域の方々と一緒に水辺や地域の魅力を最大限に引き出し、水辺周辺に賑わいを創出していきます。